

## 子どものための「卒煙外来」－実践と治療成績－

静岡市保健福祉局保健衛生部 加治 正行

はじめに

静岡県立こども病院では、タバコをやめられない子どもたちを治療する「卒煙外来」を2002年10月に開設した。子どもは一旦喫煙を始めると短期間でニコチン依存状態に陥りやすく、たとえば中学生くらいの年齢では、吸い始めて2-3週間前後でやめられなくなることが多い。このような子どもたちには叱責や謹慎処分は意味がなく、禁煙のための治療が必要である。

「卒煙外来」では、主としてニコチンパッチを用いたニコチン代替療法を行っているが、小児における治療成績はまだほとんど報告がない。

この度、外来開設以来3年間の受診者の実態と治療成績をまとめた。

対象と成績

受診者のうち20歳未満の30名（男子17名、女子13名）について検討した。内訳は中学生20名、高校生7名、その他3名であった。

初喫煙の時期は小学生時9名、中学生時17名、高校生時4名で、男子では小5から中1にピークがあり、女子では中1から中2にピークがあった。喫煙開始の平均学年は、男子が6.5年生（小学1年生からの通算）、女子が8.0年生であった。

初喫煙から外来受診までの期間は $2.3 \pm 1.3$ （平均±標準偏差）年であった。

初喫煙の動機は、男女とも「好奇心から」「友人からの誘い」が大多数であった。

過去に禁煙を試みた経験がある者は22名（73%）で、その期間は3日間が5名、1週間が2名、1ヵ月間が5名などで、範囲は1日-6ヵ月間にわたってい

た。

外来受診の動機は、「自分から希望して」という者は少なく、「母親から勧められて」「教諭（養護教諭）から勧められて」が多数を占めた。

卒煙外来では1-2時間かけて面談を行った後、ニコチンパッチを処方している。パッチの処方枚数は14枚（2週間分）の者が最多であったが、7枚（1週間分）で済んだ者も多かった。

外来受診回数は1回のみの方が20名と最も多く、2回の者が6名で、最多回数は5回であった。

受診後の経過を電話等でフォローしながら確認したところ、受診1週間後の禁煙成功率は83%、1ヵ月後52%、6ヵ月後33%、1年後23%であった。

考察

受診1週間後の禁煙成功率はかなり高く、ニコチン代替療法によって比較的短期間でニコチン依存から脱却できた者が多かったことがわかる。しかしながら、その後時間の経過に伴い、禁煙維持率は徐々に低下が見られた。

初診時から強い禁煙意欲を持った者では、卒煙に成功した例が多かったが、それ以外の者では、一旦禁煙できても、再びちょっとしたきっかけや友人関係などから喫煙習慣にもどってしまう例が多かった。

海外での研究でも、青少年に対するニコチン代替療法の治療成績は、長期成功率が20%程度と報告されている。長期的な治療成績向上のためには、医療機関のみでなく、家庭や学校などにおいて精神的サポートを継続する工夫が必要と考えられた。